

アフガニスタンの母と子の健康と命を守ろう ～ アフガン新生活運動 ～

1. アフガニスタンの状況

アフガニスタンでは妊娠と出産に係る疾病と事故により毎年約 16,000 人の女性が命を落としています。このことは 33 分に一人の割合で妊産婦が命を落としていることとなります。圧倒的に多くの女性は小学校教育すら受けることが出来なかったために読み書きがほとんど出来ません。生活の余りの貧しさと妊娠と出産に関する知識と情報が不足しているために妊娠をしても十分な栄養と休養を取ることが出来ません。地域に保健医療サービスがほとんど無いために大切な出産前後のケアすら受けることが出来ない女性が非常に多くいます。アフガニスタンの妊産婦死亡率は内戦が激しくなる前の 1996 年の統計でも出産 10 万件に対して 1,700 人が死亡するという世界で二番目に悪い状態でした。東部地域の 19ヶ所の母子保健センターで調査した結果、この数字は 2,380 人という世界で最悪のものでした。このような悲惨な母子保健の状況はタリバン政権の時代に家族計画が禁止されたことが大きな要因になっています。妊産婦が死んでしまうということは家族や地域社会にとっても余りにも悲しく不幸なことです。日本の妊産婦死亡率と比較をすると実に 390 倍という現実です。アフガニスタンの女性にとって妊娠と出産は死と隣り合わせの命がけのことです。アフガニスタンで生まれた子どもの 4 人に 1 人は 5 歳の誕生日を迎えることも出来ずに死んでいます。このような現実があるために母親は多くの子どもを生み続け、そして何人の子どもが生き残るだろうかと悲しくても考えてしまうのです。10人以上の子どもを生む母親は珍しくありません。そして出産の回数だけ女性の命が危険にさらされます。同時に生まれる子どもの命も母親と同様に危険にさらされます。アフガニスタンの乳幼児死亡率は出生 1,000 人に対して 257 です。4 人に 1 人の乳幼児が命を落としています。母親が出産で命を落してしまうということは残された子どもや家族は更に苦しく厳しい生活を送らなければならない日々が続くのです。



2. アフガニスタン復興支援活動の内容

ジョイセフは上記のような状況に置かれているアフガニスタンに対して、激戦地となったジャララバードから東に約 30 キロ離れた農村地域で母親と子どもの命と健康を守る地域活動を始めました。支援活動の概要は以下の通りです。

1) プロジェクト地区：

ナンガハール州ベスード県シャマルケル村、ナグロ村、サラチャ村、ベラ村、ミア・アリ・サヒブ村、ザヘル村、ガルディ・カク村

2) 対象人口： 約 25,000 人

3) 2002 年度支援予定金額： 6,200,000 円

4) 主な活動内容：

伝統的助産婦を養成し、無医村における安全な妊娠と出産に関する知識の普及を図り、妊産婦死亡率と乳幼児死亡率を低下させる。

アフガニスタンの農村地域はほとんど無医村であり、女性が妊娠と出産に係る情報とケアを求めても適切な助言とケアが出来る助産婦はいない。このことが大きな原因のひとつとなり女性の妊産婦死亡率と新生児・乳幼児死亡率が非常に高い。そのため、地域住民と共に生活をしながら伝統的助産婦として身近で積極的に地域活動ができる女性を支援



伝統的助産婦の実習養成をする指導員

活動対象地域の中から選び、20 日間の伝統的助産婦養成コースに参加させる。研修を終了した伝統的助産婦に対して安全で清潔な自宅分娩が出来るように助産婦キットを提供する。担当する村落では、伝統的助産婦は一人当たり 30 人から 50 人の妊産婦のケアをすることになる。地域住民にとって伝統的助産婦の存在価値は非常に大きい。クリニックは昼間しか開いていない。夕方には地域の治安が悪くなるためクリニックは閉じスタッフは早めに帰宅する。一方、お産は夜中にあることが多い。緊急事態の場合にはクリニックが閉じている時でも対処しなければ手遅れになることが多い。クリニックはあっても住民にとりまだ遠い存在である。普段の妊娠のケアにかかわることは保健医療の分野ばかりでなく家族内の出来事や地域社会の様々な問題も含む。また相談相手が女性でないと心を打ち明けて相談できない悩み事も多い。実践活動の中で直面する困難な事態や自分自身では解決できない地域社会の複雑なことは、定期的に伝統的助産婦に対する再研修コースの中で討論し、知恵を出し合いながら助産婦の知識と経験と技術の向上を図る。この伝統的助産婦の日常の活動に対しては地域で影響力のある男性で構成されているシューラと呼ばれる地域協議会組織が協力する。そして伝統的助産婦の役割と活動が地域社会全体にとっていかに重要なものを住民に理解させ伝統的助産婦が活動しやすい地域社会環境作りを行う。

無医村におけるクリニックを開設する

シャマルケル村を拠点としたクリニックにプロジェクト監督官 1 名、メディカルドクター 2 名（男性と女性の医者各 1 名）、看護婦と看護師（男女各 1 名）、薬剤師 1 名、地域健康教育推進員 2 名（男女各 1 名）、検査技師 1 名、予防接種担当技師 2 名、経理担当 1 名、警備員 2 名を配置して、慢性的に欠如している地域住民に

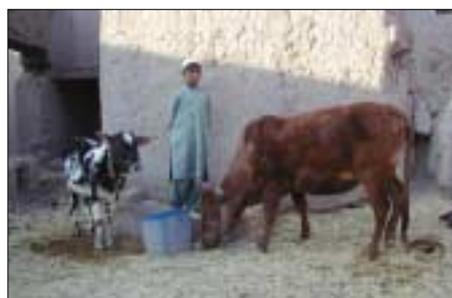
対する保健医療サービスの拡充をする。この地域の外来は下痢症、悪性マラリア症、寄生虫病、肺炎、結核などが多く、早急に対応しなければ致死率が非常に高くなる。近隣の村々は無医村のため数十キロメートルの遠方から訪れる外来も多く、保健医療関係の要員を拡充して対応する。特にイスラム教の厳しい教義が続いたアフガニスタンでは診察のために女性の患者が男性の医者に見せることも自由に出来ず、また女性の患者は男性の医師に女性特有の問題などを気軽に相談出来ない。そのため医学教育と必要な実習経験を積んだ女性の医者の存在は女性と子供の健康と命を守るために特に重要である。また地域の疾病を治療するための医薬品を定期的に購入し、診断の内容に応じて疾病を治療し薬を処方する。地域住民は貧しいがクリニック自体も運営資金が乏しいため無料で医薬品を住民に配り続けることはできない。クリニックが継続的に活動することができるように原則として薬代の25%は利用する地域住民に負担してもらう。ただし極貧の生活をしている住民には薬代は無料とする。

寄生虫駆除活動と連動した住民健康教育と地域環境衛生活動の向上

アフガニスタンでは土壌伝播寄生虫である回虫の感染率はほぼ100%と言われている。駆虫薬を地域の子どもや大人に服用させ、体内から排出される回虫などを住民自身の目に直接見せることにより地域の劣悪な生活環境を認識させ、健康教育と地域環境衛生啓蒙普及活動への参加意識を高める。そして寄生虫駆除活動から家庭での排便の処理方法、トイレの設置、食事の前の手洗い、飲み水の確保と煮沸など生活向上に向け住民参加型の活動を行う。寄生虫は再感染しやすいので継続的な健康教育と地域住民活動を盛り上げる。

戦争孤児の自立を支援するために乳牛を供与する

長い戦争の間に親を失った孤児が村々に多くいる。その子どもたちの将来の自立を支援するために乳牛を20頭配る。乳牛のミルクから出来るヨーグルトやチーズは村の市場で売り現金収入とし、子どもたちの生活費支援をする。またミルクから作るヨーグルトやチーズは子どもや妊婦の栄養としても活用する。地域に蔓延している栄養失調や栄養不良を減少させる。牝牛から生まれた子牛は苦しい生活をしている地域の戦争孤児に順次配る。



戦争孤児に配られた乳牛

皆様のご支援により例えば以下のようなことがアフガニスタンで出来ます

1) 2,600 円

伝統的助産婦キット1ヶを提供して、無医村で安全で清潔なお産が自宅で出来るようになります。

キットの中身 1)はさみ：へその緒を切るため 2)ブラシ：手、指、爪の間の汚れを落とすため 3)殺菌用液体溶液 4)洗浄用石鹼と石鹼入れ容器 5)出産介助用の使い捨て用ゴム手袋 10 セット 6)タオル大小サイズ各1枚 7)鉗子(かんし)：生まれた赤ちゃんのへその緒を切る前に留めておくもの 8)吸引器：生まれた赤ちゃんの口と鼻から羊水を吸い取り出すもの 9)出産介助用予防着 10)爪切り 11)脱脂綿 12)安全カミソリ：へその緒を切るため 13)パウダー 14)簡易煮沸器：お湯を沸かし消毒するため 15)ビニールシート(サイズ 1.2m x 1.5m)：自宅分娩をする女性の体の下に敷いたり、生まれた赤ちゃんを地べたに直接置かずに清潔を保つため 16)糸：切ったへその緒を縛り留めるため 17)桿状(かんじょう)聴診器：妊婦のお腹に当て胎児の心音を聴く筒状の用具

2) 26,000 円

住民から選ばれた女性1人を20日間の伝統的助産婦養成コースに参加させ、安全で清潔なお産と産前産後の指導とケアを行い、妊産婦死亡と乳幼児死亡を減少させる。地域に蔓延している栄養失調を減らすため、地域住民に対し栄養改善運動を行う。

3) 32,000 円

戦争孤児に乳牛1頭を配り、毎日搾り取るミルクを地域の栄養失調の子どもや妊産婦に配る。またミルクから作るヨーグルトやチーズは市場でも売り現金収入を与え戦争孤児の生活支援をする。

皆さん方のご支援をお願い致します。

皆様のご支援の募金は下記の口座をご利用ください。

また通信欄には「アフガン募金」とご記入下さい。

郵便振替口座： 00190 - 2 - 78370

加入者名：家族計画国際協力財団

お問い合わせ先：

ジョイセフ国内事業部アフガニスタン復興支援係

Tel：03-3268-5875 Fax：03-3235-9774

Email：domestic@joicfp.or.jp URL <http://www.joicfp.or.jp>